

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173300027		
法人名	有限会社 しましまハウス		
事業所名	しましまハウス寺林		
所在地	岐阜県飛騨市神岡町寺林1246-1		
自己評価作成日	平成23年8月30日	評価結果市町村受理日	平成23年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2173300027&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方も地域の一員として共に生活していきたい。その為に地域との関わり、病院 老人福祉施設の温泉等の利用、学校生徒や馴染の方との交流をしている。ご家族の協力も仰ぎ入居者の想いを出来る限り叶えたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「楽しく余生を過ごしたい」との利用者の思いに寄り添ったケアを、職員間で共有しながら、日々の暮らしを支えている。玄関に一步入れば、大きな笑い声が飛び交い、安心して過ごせる家庭的な居場所となっている。通学途中の子どもが気軽に声をかけ、近隣の住民が立ち寄るなど、地域に定着している。中学生や高校生の職場体験を受け入れ、地元の子どもが遊びに来るなど、世代を超えた交流が続けられている。管理者と職員は、利用者の生まれ、育った地域の思い出を大切に、穏かに余生を楽しく過ごしてもらうように、愛情豊かなケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「どんなに老いてもやりたい事、叶えたい事がある。それをわがままととらえず家族となりサポートする」常に内部研修で共有、実践に繋げる様にしている	「やりたいこと、わがままが言える生活」を理念に掲げている。理念は、朝のミーティングで確認し、共有している。住み慣れた地域の中で、笑顔で自分らしく過ごせるように、日々、楽しい暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等は必ず声かけをして参加して貰う様にしている。近隣の方々も常に入居者の方にと花や野菜を届けて下さりその都度お茶を飲みながら語らいをしている。	地域の行事には、自治会から誘われ、参加している。地域の高齢者を抱えた家族からの相談に応じている。職場体験の学生も受け入れ、近隣から「野菜を取りに来よう」声がかかるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お年寄りを抱える近隣の方の話を聞いたり、独居の方の訪問をいつでも呼びかけている。職場体験の生徒さんとの交流も楽しみにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出たご家族の意見や思い等取り入れるようにしている。ご家族の意見を市が助言してくれる場合もある。	2ヶ月に1回開催し、行政、民生委員、近隣代表、家族が参加している。出席者からは、東日本大震災の教訓を活かすために、個々の服薬等医療情報をペットボトルに入れて冷蔵庫に保管する提案が出され、家族の承認を得て実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社協の行う研修会等積極的に参加している。運営推進会議時だけではなくグレーチング修理や、スプリンクラー設置等相談に乗って貰っている。	介護保険法改正などの説明を受けたり、改修工事などの困難事例を相談している。行政主催の研修会には積極的に参加している。ホームの運営状況を随時報告し、日頃から連携を密にするよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの手引き」の読み合わせや緊急やむを得ない状況とは等の内部研修をしている。	「身体拘束ゼロ」のマニュアルに基づく学習をし、拘束のないケアを実践している。やむを得ない場合は、家族と十分話し合い同意書を交わしている。玄関は施錠せず、見守りと、近隣とも協力が得られる関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは の内部研修をしながら特に声のかけ方について注意している。		

岐阜県 しましまハウス寺林

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在適応の方が居ないこと事もあり職員の理解が十分とは言えないが市の研修会の資料等の読み合わせをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分時間をかけ説明し同意を得ている。利用料金改定時も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望は小さな事でもその都度取り上げるようにしている。家族へは、電話や訪問時なんでも言いあえる雰囲気作りをしている。	運営推進会議や、家族の訪問時に意見や要望を聞いている。家族からオムツの使用量を減らすサイクルを教えてもらい実施している。また、家族の提案により、家族が旅行などで留守になる場合は、ホームに連絡することになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は定期的に訪れ職員の意見を聞いている。職員の意見は小さな事でも管理者から代表者に伝えている。	法人代表が職員から定期的に意見、提案を聞くシステムがある。職員から、利用者の支援方法など、他施設の経験に基づく改善案が提起され、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験や力量に応じ外部研修への参加をしている。新人研修、資格取得援助を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを目指し外部研修や3施設合同の研修等を行っている。資格取得を目指し資料の提供も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飛騨地域のグループホーム協議会の研修や飛騨地域のケアマネ会議等で交流、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い、本人と家族、其々の想いや不安を聞き把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が今何に困っているのか要望は何かを時間をかけ十分に聞く。本人の想いも受け取る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族と相談の上徐々に馴染んで行ける様2泊3日の体験入居を取り入れ次の段階へと繋がる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	訪問時、手紙等日頃の様子を報告したり変化があった場合など電話での相談、報告をし家族と同じ想いで支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望を聞きとめ家族に報告、相談している。温泉同行などの協力、手紙の返事や電話で声を聞かせて欲しい等の本人の要望を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等が気楽に立ち寄れるよう声かけをしている。行きつけの美容院へでかけたり暑中見舞いや年賀状を出して貰い交流が途切れない様にしている。	同級生や元同僚などが訪れている。ゆっくり話す場所を提供し、再度の訪問を促している。行きつけの美容院、市内の温泉、買い物などは、家族の協力で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係を理解し世話好きな方にはうまく力を発揮して貰うなど個性を生かす配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地元の利用者が多いので他へ移られてからもホームへ寄られたり近況報告等がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情から真意を汲み取り把握するよう努めている。家族からも暮らし方や想いを聞き把握するようにしている。	言葉や表情から思いや意向をくみ取っている。言葉の少ない人は、家族から聞き取っている。把握した思いや希望は、個々の穏かな暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら家族等にケアプランに必要な過去の具体的な情報を収集し今までの生活と大きな変化がないようにして行く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送り、記録情報共有を行いながら一人ひとりの1日のリズムを掴むようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング用紙を活用し職員で意見交換した内容を記録し、1ヶ月の様子を見ながらプランが適正か検討している。	介護経過を、毎月全職員でモニタリングしている。職員の気づきや、本人・家族の希望を取り入れ、介護計画を作成している。心身の状態や、医師の意見に基づき、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日課表に日々の様子を記録し職員全員が確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	モニタリング用紙を活用する事で小さなニーズも把握し検討している。プランを直ぐ作り替えるのではなく3か月間検討しプランに取り入れている。		

岐阜県 しましまハウス寺林

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での暮らしが安心して続けられる様、消防署・民生委員の協力 温泉入浴券の活用・タクシー助成券等の利用をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1の主治医による往診 急変時の協力医の相談を受けられるようにしている。	契約時に、かかりつけ医についての説明をしている。協力医による月1回の往診があり、全員が受診している。常勤看護師が協力医と連絡を密にし、急変時にも素早く対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師3名が勤務しているので細かな事も直ぐ報告、相談している。その上で必要時は家族に報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には看護師が付き添い、状況説明をしている。入院中は見舞いや家族と連絡・病院関係者とも早期退院に向けて情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期の説明を行っている。入院時主治医から家族に説明して貰っている。	重度化、終末期については、ホームが対応し得るケアの限度までとする方針を、利用開始時に家族に説明しており、看取りは行わない。重度化に伴い、協力医の判断を受け、他の機関に移ってもらうようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による定期的な救命救急指導を受けている。初期対応も内部研修で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署による定期的な避難訓練を行っている。緊急時の協力をお願いを近隣の方々にお願いしている。	年に2回、夜間を想定した訓練も含め実施している。近隣の事業所に緊急時支援の承諾を得ている。スプリンクラー設置工事も始まっている。避難訓練経路、非難場所、器具のとり扱い等、常に確認している。	家族に対し、災害時の取り組みを報告するに留まらず、訓練当日に参加してもらい、災害に対する理解と意識の共有に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりその人らしい尊厳ある姿を大切にしている。誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしていないか常に気をつけている。	人生の先輩として、常に敬う気持ちを大切にしている。一人ひとりの思いを受け入れ、共感しながら、誇りを傷つけない言葉かけを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し自ら選択出来るような声かけをしている。誕生会には、本人の希望を出来るだけ取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペース、心身状況に合わせ、やりたい事を無理のない様にして貰っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の拘り髪型や化粧品等希望に添えるように家族にも協力をお願いしている。体系が変わり合わなくなった洋服等も近所のお店に頼み本人が来やすいように直して貰うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所から頂く山菜や野菜の下処理をしながら自分が作った料理の仕方を教えて貰ったり 今年梅を沢山採ったので下処理から仕上げまですることが出来た。	ホームの畑で採れた野菜を調理し、食卓の楽しい話題にしている。利用者からは、料理の仕方や味付けを教えてもらっている。食材の準備や片付けも一緒に行い、職員も同じメニューを摂りながら、にぎやかな時間を、共に過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食物量はバイタル表で確認出来るようになっている。水分摂取量が少ない方には、飲み物や温度に工夫して摂取出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛け、定期的なポリドントをしている。治療が必要な時は受診や往診で対処している。		

岐阜県 しましまハウス寺林

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し一人ひとりのトイレ誘導やオムツはずしに繋がる様にしている。	個々の排泄パターンを把握し、こまめにトイレに誘導している。動き、表情などのサインを見逃さず、トイレへ誘導することで失敗を少なくし、オムツの使用を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し体調に合わせた食事や水分補給を心がけている。適度な運動を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間、順番など極力希望に合わせている。菖蒲湯などの希望を聞いている。重度の方は希望に応じ家族の協力を得ながら温泉も利用している。	週2回の入浴日を設けているが、希望があれば、回数にこだわらず入浴できる。排泄時のシャワー浴など、必要に応じ、支援している。入浴を好まない利用者には、家族の協力を得て支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来る様に日中の過ごし方を工夫している。天気の良い日は布団を干して気持ちよく休んで貰うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が往診後のミーティングで確認報告している。服薬内容に変更があった時は副作用や変化がないかを記録し医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事に添った食事作りや、梅干し・紫蘇ジュース等を作り日々の食事で食べている。家族やご近所お裾分けをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院へ出掛けたい、病院へ行きたい等の希望はご家族にも協力して貰いながら叶えている。	近くの神社まで毎日散歩している。買い物、外食、温泉にも、職員と共に出かけている。美容院や遠方への買い物は、家族が役割りを担っている。	

岐阜県 しましまハウス寺林

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金は持たない様になっているがその方に応じて少額の現金を持ち、買い物時に本人が支払うこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を出す為の支援をしている。家族からの電話には子機を渡し遠慮なく話せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭には自由に出入りできる様にしている。草むしりをしたり、咲いた花を切り自分の部屋に飾る様にしている。	季節の花が庭で育てられ、利用者が好みの花を共用の部屋に飾っている。廊下には、職員と共に作り上げた刺し子や、行事など思い出の写真も随所に飾られている。季節感を採り入れ、快適に暮らせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先や廊下にソファを置き、自由に寛げるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で過ごす時間が寛げるように本人の希望を取り入れている。	使い慣れた整理タンスや鏡などが持ち込まれ、家族の写真が飾られている。また、本人の誕生日会など思い出の写真も飾られている。馴染みの物を活かし、居心地よく生活ができる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせ必要な目印や物の配置に気をつけている。		